

泣ケリ、

〔枕草子三〕草の花は

なでしこからののはさら也、やまとのもいとめでたし、

〔枕草子八〕うつくしきもの

なでしこのはな

〔源氏物語常夏二十六〕御まへにみだりがはしき前裁などもうゑさせ給はず、なでしこのいろをと、

のへたる、からのやまとの、ませいとなつかしくゆひなして、さきみだれたるゆふばへ、いといみじうみゆ、

〔和泉式部集五〕おなじところなる人の、ことかたにおきて、からなでしこを、やまとならぬなむあ

るとて、おこせたるに、

かひなきはおなじかきほにおふれどもよそふるからのなでしこの花

〔更科日記〕もろこしがはら○模といふ所も、すなごのいみじうしろきを二三日ゆく、夏はやまと

なでしこのこくうすく、にしきをひけるやうになん咲たる、これは秋の末なれば見えぬといふに、なを所々は打こぼれつゝ、あはれげに咲わたれり、もろこしがはらに、やまとなでしこしも、咲けんこそなど、人々おかしがる、

〔武江産物志薬草〕道灌山ノ産 瞿麥○なニモアリ

〔武江産物志遊観〕石竹 木所植木屋

〔新撰字鏡草〕王不留行加○佐○久○佐○

〔本草和名七〕王不留行 一名王不流行出○釋、和名須々久佐、一名加佐久佐、

〔倭名類聚抄二十〕王不留行 釋藥性云、王不留行今案一本留作流、和名加佐久佐、

王不留行